

令和 2 年 6 月 26 日現在

機関番号：10102
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2016～2019
課題番号：16K04337
研究課題名(和文) DMM-AAIの妥当性検証研究

研究課題名(英文) the validity study of the DMM-AAI

研究代表者

三上 謙一 (MIKAMI, KENICHI)

北海道教育大学・保健管理センター・准教授

研究者番号：90410399

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：Patricia Crittendenが開発した、アタッチメントと適応の動的-成熟モデル(DMM)に基づいたアダルト・アタッチメント・インタビュー(DMM-AAI)を日本に導入するために、その妥当性の検証を目指した。研究代表者の三上は心理療法においてDMM-AAIを実施して、DMM-AAIが日本人の青年期以降のクライエントの理解に役立つアセスメント・ツールであることを示した。共同研究者の戸田はWeb調査を通じて青年期のアタッチメントにおいて恋人や友人とのアタッチメントネットワークが大きな役割を果たしていることを示し、青年期における親以外の重要な他者とのアタッチメント研究の必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

DMM-AAIはまだ開発されてもいないアタッチメントのアセスメント・ツールであるが、従来のAAIに比べて、より臨床群の理解に役立つことが期待されている。DMM-AAIは実証研究のみではなく、臨床実践にもアセスメント・ツールとして有用である可能性が示された。今後さらに事例を積み重ねて臨床的有用性を示せば、虐待のアセスメントを始めとして、様々な臨床場面でDMM-AAIを用いることが可能になると思われる。

研究成果の概要(英文)：This study was aimed to validate the DMM-AAI which was developed by Patricia Crittenden in order to introduce it to Japan. Main researcher, Mikami, administered the DMM-AAI in psychotherapy which indicated that the DMM-AAI could be a useful assessment tool to understand Japanese adolescent clients. Co-researcher, Toda, did research on the web which suggested that romantic partner and friends play a significant role in adolescent attachment. This result suggests that the study of the significant others in addition to parents should be important for the future attachment research.

研究分野：臨床心理学

キーワード：アタッチメント DMM-AAI

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

青年期以降のアタッチメントを測定する方法は発達心理学では面接法であるアダルト・アタッチメント・インタビュー(以下、AAIとする)が、社会心理学では様々な質問紙法が開発されてきた。AAIは近年、実証研究のためだけでなく、臨床実践にもアセスメント・ツールとしても用いられるようになってきた。しかし、これまで欧米で主流であった Mary Mainらによる AAI は健常群と臨床群の鑑別力が十分ではないことが指摘されている。これに対して Patricia Crittenden が従来の AAI を修正して発展させた DMM-AAI は、健常群と臨床群をより良く鑑別し、また臨床群の下位分類を見出せることが示されている。

しかし、DMM-AAI は開発されて間もないため、日本ではこれまで実施されることがなかった。そのため DMM-AAI が日本の臨床実践で役立つかどうかを調べるためには、心理療法において日本人のクライアントに適用する必要があると思われた。

また AAI は主に過去の親子関係の記憶を調べることを通して個人のアタッチメント方略を分類するものである。しかし、実際には青年期以降には親との関係以外に友人や恋人との関係の方がアタッチメント関係として機能する可能性もあると考えられる。人は複数のアタッチメント対象とのつながり、すなわちアタッチメント・ネットワークを有しており、青年期や成人期では恋人を主たるアタッチメント対象として選択しやすい。しかし、恋愛関係が崩壊すると、主たるアタッチメント対象であった恋人を失うことになり、アタッチメント・ネットワークの再構築が必要となる。そこで、青年期以降のクライアントとの心理療法においては、このような親以外の重要な他者とのアタッチメント関係の崩壊とその再構築について調べる必要があると思われた。

2. 研究の目的

本研究の目的は第一に DMM-AAI が日本人クライアントを対象にした心理療法においても臨床的妥当性があるかどうかを検証することである。実際に日本人のクライアントに DMM-AAI を実施して、その分類が心理療法過程の理解にどれだけ役立つのかを見ることによって、欧米で開発された DMM-AAI が日本においても同様の妥当性を有するのかを調べることができると思われる。第二の目的は青年期における友人や恋人などのアタッチメント・ネットワークの役割について検証することである。これによって親からの自立を図る

うとしている青年がどのようなアタッチメント・ネットワークを構築しているかを明らかにできて、青年期のクライアントの援助をする上での有用な視点が得られると思われる。

3．研究の方法

研究代表者の三上は、DMM-AAI が日本人クライアントとの心理療法においても臨床的妥当性を有するのかどうかを調べるために、心理療法の過程において DMM-AAI を用いた事例研究を行った。

分担研究者の戸田は、Web 調査を通じて青年期のアタッチメント・ネットワークについての研究を行った。

4．研究成果

三上の研究成果は以下の論文として刊行された。2018 年に思春期精神医学に掲載された「アタッチメントと適応の動的—成熟モデル (DMM) から見た青年期のアタッチメントの発達過程 - DMM-AAI を用いた心理療法効果測定を試み - 」では、心理療法の開始時と終結後に DMM-AAI を実施して、アタッチメント方略の変化を捉える試みを行った。その結果、DMM-AAI はクライアントのアタッチメント方略をアセスメント時に適切に捉えるだけでなく、終結後にいかに変化したのかも捉えられることが明らかになった。この結果は DMM-AAI が実証研究のツールとしてだけでなく、ロールシャッハなどの従来の心理検査と同様に、心理療法のアセスメント・ツールおよび効果測定のツールとして有用である可能性を示唆していると考えられた。

また 2018 年には DMM-AAI のマニュアルである Crittenden & Landini 著「成人アタッチメントのアセスメント」を岩崎学術出版社より監訳して出版することができた。これは今後の DMM-AAI の日本での普及の足掛かりとなると期待される。

次に、2019 年にイギリスのジャーナルである ATTACHMENT: New Directions in Psychotherapy and Relational Psychoanalysis に ‘ Using the DMM-AAI to overcome ruptures in therapeutic alliance. ’ が掲載された。本論文では治療同盟の破綻が生じた心理療法中期以降に DMM-AAI を実施することによって、破綻からの回復を遂げる過程を論じたもの

である。DMM-AAI を心理療法開始時のアセスメント・ツールや終結時の効果測定ツールとして使用可能であることは従来から指摘されてきた。しかし、本研究の結果はそれらに加えて、DMM-AAI を心理療法の行き詰まりの回復の手段として用いることができる可能性を示唆したものである。

最後に、これまでの研究の総括として 2020 年に首都大学東京に博士論文「青年期以降のクライアントとの心理療法におけるアタッチメントの活用に関する研究」を提出した。博士論文では青年期以降のクライアントにアタッチメント理論を適用するためのモデルを提案し、これまでの研究を一つの形にすることができた。

次に分担研究者の戸田の Web による研究は、第 1 研究では横断的研究によって関係崩壊後のアタッチメント対象の役割と元恋人に対するアタッチメント機能の低減に関連する要因を検討した。半年以内に恋人との関係崩壊を経験した 443 名を対象とした Web 調査を行った結果、「近接性探索」、「安全な避難場所」、「安全基地」いずれの機能も友人が最も高く、関係崩壊後のアタッチメント・ネットワークにおいては友人が重要な役割を果たしていることがわかった。また、重回帰分析の結果、3 つのアタッチメント機能のいずれにおいても、自分から別れを切り出したことが元恋人へのアタッチメント欲求の低さと関わっていた。第 2 研究では、半年以内に恋人との関係崩壊を経験した 396 名に 3 回の Web 調査を行い、縦断研究によって元恋人へのアタッチメント欲求と抑うつ感情の変化に関連する要因について検討した。潜在成長曲線モデルによる分析の結果、元恋人へのアタッチメント欲求は相手から別れを切り出され、失恋に苦痛を感じるほど初期値が高いこと、一方、アタッチメント回避が高いほど初期値が低く、変化も小さいことがわかった。これは回避型の不活性方略によるものと思われる。抑うつ感情については、アタッチメント不安と正の関連を示した。アタッチメント不安が高いほど抑うつ症状の初期値が高く、症状の減衰が遅く、このことはこの型の過活性方略によるものと推測された。

以上、2 つの研究では各対象へのアタッチメント欲求や機能別の選好の強さを測定するために、WHO-TO 尺度 (Fraley & Davis, 1997) を翻訳して用いたが、この尺度はアタッチメント対象への選好を順位で測定しており、選好の強度を十分に把握できないという問題点があった。そこで、第 3 研究ではアタッチメント対象への選好の強さを把握する尺度の作

成を試みた。1200名を対象としたwebパネル調査を行い、配偶者・恋人、母親、父親、友人の4対象への選好の強さを尋ねるリッカート形式の尺度へ回答を求め、潜在プロファイル分析によって回答者を分類した。その結果、アタッチメント対象への選好の強さによって性質の異なる6つのクラスタが抽出された。各クラスタは対象への選好の強さも選好する対象の種類も異なっており、順位による選好では測定できないアタッチメント・ネットワークの様相をより詳細に捉えられる可能性が示された。第3研究は日本パーソナリティ心理学会第29回大会（和光大学）で発表する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 岡村優喜子・鈴木佳代子・三上謙一	4. 巻 41
2. 論文標題 乳幼児看護学ははじめの一步 アタッチメント理論のDMM理論に基づく看護介入	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 1211-1215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上謙一	4. 巻 15
2. 論文標題 心理的に不安定な友人からの自殺の脅しに悩む学生への介入の方法について アタッチメント理論からの考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校臨床心理学研究（北海道教育大学大学院紀要）	6. 最初と最後の頁 3-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 三上謙一	4. 巻 27
2. 論文標題 アタッチメントと適応の動的 成熟モデル（DMM）から見た青年期のアタッチメントの発達過程 - DMM-AAIを用いた心理療法効果測定を試み -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 思春期青年期精神医学	6. 最初と最後の頁 91-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上謙一	4. 巻 14
2. 論文標題 アタッチメント理論から考える保育者のサポート	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 子育て支援と心理臨床	6. 最初と最後の頁 48-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kenichi Mikami	4. 巻 13
2. 論文標題 Using the DMM-AAI to overcome ruptures in therapeutic alliance.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ATTACHMENT: New Directions in Psychotherapy and Relational Psychoanalysis	6. 最初と最後の頁 64-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Kenichi Mikami
2. 発表標題 The clinical usefulness of the DMM-AAI in individual treatment
3. 学会等名 the international association for the study of attachment 10 year anniversary celebration (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三上謙一
2. 発表標題 アタッチメントと適応の動的 - 成熟モデル (DMM) による非行・犯罪へのアプローチ
3. 学会等名 犯罪心理学会第55回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三上謙一
2. 発表標題 アタッチメント関係と自伝的記憶
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三上謙一
2. 発表標題 アタッチメントと適応の動的 - 成熟モデル (DMM) から見た青年期のアタッチメントの発達過程
3. 学会等名 日本思春期青年期精神医学会第30回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三上謙一
2. 発表標題 アタッチメント理論から考える保育者のサポート
3. 学会等名 第12回子育て支援講座「子育てにおけるコミュニケーション」(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kenichi Mikami
2. 発表標題 Introduction to Dynamic Maturation Model (DMM) of Attachment and Adaptation in Asia
3. 学会等名 The 10th Congress of The Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 クリテンデンとランディーニ	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩崎学術出版社	5. 総ページ数 344
3. 書名 成人アタッチメントのアセスメント	

1. 著者名 三上謙一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 中央法規	5. 総ページ数 330
3. 書名 こころの医学入門	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	戸田 弘二 (Toda Kouji) (60207579)	北海道教育大学・教育学部・教授 (10102)	